

2002年度春季大会の専門分科会の実施方式とコンピーナー募集

1. 2002年度春季大会の専門分科会の実施方式

2002年度春季大会もこれまでと同じく、原則として一般発表はポスターとし、大会第1日と第3日の午後に専門分科会を開催するという方式で実施する予定です。

専門分科会については下記の要領で実施します。

- (1) 2回に分けてそれぞれ数件ずつ開催する(時間は3時間程度の予定)。分科会の運営はコンピーナーに委ねることにし、コンピーナーは公募する。分科会に申し込まれた講演の採否はコンピーナーの判断による(不採用の場合は、申込者の希望に応じてポスターへの振り替えあるいはキャンセルになる)。コンピーナーのアレンジによる招待講演も可能、招待講演のみの分科会も認める。
- (2) 分科会の数は1日2～3件を基本に考えるが、申込が多かった場合は、「同一会場での1日に2件の開催」、「類似テーマのものとの共同開催」、「大会会場外の会場の利用」等の調整を行う予定である。なお、テーマによって大会期間外(前・後日、土曜日など)の開催の希望がある場合は別途考慮する。

今後のスケジュールは以下のように予定しています。

10月17日(水)：分科会のテーマとコンピーナーの募集締切(詳細は下記)

12月末：大会告示(「天気」12月号に掲載)

2月上旬：講演申込締切

2月中旬：プログラム編成

補足：

- ・会期は2002年5月22～24日(予定)、会場は大宮ソニックシティの予定です。

2. 分科会のコンピーナー募集

上記の実施方式に基づき、2002年度春季大会における分科会のテーマとコンピーナーを募集します。コンピーナーには、分科会の企画から実施まで全般にわたる世話を担当して頂きます。主な役割としては、

- ・テーマの立案、応募
- ・講演申込の受付、プログラムの作成(招待講演の設定、講演持ち時間の配分、座長の手配等を含む)

・大会当日の分科会の運営

・大会終了後の報告原稿作成(感想および400～800字のレポート)

があります。これらを円滑に進めるため、コンピーナーは分科会ごとに複数の方をお願いします。またプログラム編成期(2002年2～3月)には、講演企画委員会と常時連絡がとれるようにして下さい。

応募に当たっては、以下の点に留意して下さい。

- (1) テーマは「メソ」「気候」のような漠然としたものではなく、実質的な議論を深めるという分科会の目的に沿うよう、テーマを絞り明確なコンセプトを持つものにして下さい。なお、テーマは講演企画委員会が適宜調整し、理事会での承認を受けるものとします。
- (2) 大会方式についてのアンケートなどでは「分科会の性格を明確にしてほしい」という要望があります。「最先端の話題について議論を深める」という性格の分科会の他に「啓蒙的な性格で、主に情報提供を目的とする」分科会もあって良いですが、いずれにせよ「趣旨説明」の中で分科会の目指す方向を明確にさせていただくようお願いします。
- (3) 分科会の割り当て時間は3時間程度です。講演持ち時間はコンピーナーの判断に任せますが、1件当たり15分程度は確保して下さい。また、分科会が単なる「時間の長い口頭発表セッション」に終わることのないよう、議論の時間を十分に確保して下さい。
- (4) 招待講演も歓迎します。その内容は必ずしも original paper である必要はありません。招待講演者がすでに決まっている場合にはこれを「趣旨説明」に書くなど、申込者への情報提供を図って下さい。
- (5) 分科会会場の収容人数はそれぞれ100～200人の予定です。

申込方法

以下の事項を明記して郵便で申し込んで下さい。

1. 分科会のテーマ
2. 分科会の趣旨説明(200～400字)
3. コンピーナーの氏名・所属および代表者1～2名の連絡先(電話・Fax および e-mail)
4. 分科会に講演を申し込む場合の郵送料

上記は「天気」12月号に掲載されます。要望があれば電話、Fax, e-mailも掲載します。

申込先：〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部

講演企画委員会（永戸久喜）

申込期限：2001年10月17日（水）必着



第151回大学共同セミナー「気候学・気象学入門セミナー」開催の案内

今、気象に対する関心が高まり、マスコミなどでも気象予報の重要性や需要がますます高まりを見せており、気象予報士の希望も増えております。このような状況の中で、気象に関する講習会を企画いたしました。多くのかたの参加を期待します。講習会の内容は次のとおりです。

地球を取り巻く大気の中で発生する現象は、地面近くの風のような小さな規模のものから、竜巻、台風、高低気圧、果ては地球を一巡りするほどの大きな波まで、さまざまな規模の現象が含まれています。大気の厚さは地球の半径に比較するとごく薄く、その大気の中で様々な現象が発生しています。また、現在は「地球温暖化」が政治的にも問題となり、気候学や気象学をめぐる話題には事欠きません。この身近な存在である気象現象を科学的な目でみるとどういう理屈で起こっているか、いろいろな現象がどのように絡み合っているかについて、やさしく解説します。また、その気候学・気象学の知識が、天気予報や長期の予報にどう結びついていくのか説明します。

1. 気候学への誘い

京都大学名誉教授 山元龍三郎

2. 数値天気予報とカオス

京都大学大学院理学研究科助教授 余田成男

3. 台風

京都産業大学一般教育研究センター教授 藤井 健

4. 局地・メソ気象

京都大学防災研究所助教授 石川裕彦

5. 地面付近の気象（大気境界層）と気象観測

京都大学防災研究所助教授 林 泰一

（司会）京都大学大学院工学研究科教授 松本 勝

期 間：平成13年10月27日（土）～28日（日）

場 所：関西地区大学セミナーハウス

募集人員：大学生及び一般から40名（宿泊者に限る）

参加経費：学生 7,900円（受講料、宿泊料、食事料、消費税）

一般 10,400円（受講料、宿泊料、食事料、消費税）

申込方法：参加申込書に記入の上、参加経費（全額）とともに現金書留にて郵送のこと。

参加申込書は、セミナーハウスへ直接請求してください。

参加申込み後、キャンセルをされる場合は、参加経費の返金はできません。

申込締切：平成13年10月13日（土）

（ただし、定員に達し次第締め切ります。）

問合先：関西地区大学セミナーハウス

総務課 福井または清原

〒651-1503

神戸市北区道場町生野字ロクゴ318番ノ2

Tel：078-985-4391, Fax：078-985-7219